


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル 6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円

No.670

- ★「読書週間」ポスター完成(2頁)
- ★今年も書店で「秋の読者還元祭」!(3頁)



読書の楽しみで生きる活力を

「読書週間」によせて

公益社団法人 読書推進運動協議会 理事
 株式会社 文藝春秋 相談役
 中 部 嘉 人

なかべ よしひと
中部嘉人

今年上半期の芥川賞に『ハ
 ンチバック』で選ばれた市川
 沙央さんは、小説の中の主人
 公と同じようにご自身も筋疾
 患先天性ミオパチーという難
 病を抱えている。小説の中
 の主人公の言葉を用いる。

「本に苦しむせむしの怪物の
 姿など日本の健常者は想像も
 したことがないのだろう。こ
 ちらは紙の本を1冊読むたび
 少しずつ背骨が潰れていく気
 がするというのが、紙の匂い
 が好き、とかページをめくる
 感触が好き、などと宣い電子
 書籍を貶める健常者は呑気で
 いい。」

私も紙の本の手ざわりや質
 感を愛で、だんだん減って
 く残りページの量に、本を読
 むことの味わいがあると折に
 ふれて語ってきただけに、な

んとも呑気の極致、思いもよ
 らなかった指摘にドキッとさ
 せられた。

市川さんは、芥川賞受賞後の
 記者会見で読書バリアフリー
 を訴えることを念頭にこの作
 品を書いた、とインタビュで
 語っている。

2019年に施行された
 「読書バリアフリー法」により、
 出版界も「読書困難者の読書
 環境を整備すること」を目的
 とした動きが進んでいる。と
 かく読書困難者という視
 覚障がい者ばかりに目が向け
 られがちだが、物理的に紙の
 本を持つて読む姿勢を取り続
 けることが困難な人もいるの
 だ。あらゆる人にやさしい読
 書環境の整備が、私たちに
 求められている。

この小説は、市川さんでなけ

れば書けない作品だった。は
 じめて気づかされることも多
 く、衝撃の読書体験であった。

辛辣な言葉やときにユーモア
 にくるまれた独特の表現に
 よって、著者の強い思いが伝
 わってくる。健常者には、想
 像もつかない困難の中で毎日
 を送る当事者でなければ書け
 ない物語を、こうして多くの

人が読むことで追体験できる
 ことこそが、文学の持つ力の
 ひとつであるし、障がいを持
 つ人と共生していく社会を考
 えるきっかけにもなる。

これまでも芥川賞受賞作品
 は、その時代時代の社会に生
 きる人間の営みや思考を色濃
 く反映したものが数多くあり、
 ときに問題を提起し、社会の
 歪みを赤裸々にした作品も多
 い。それらの中には、大きく世

間の耳目を集めたものもあつ
 た。この作品もまさに、芥川賞
 の長い歴史に刻まれる記念碑
 的の一作である。そして、すべ
 ての人にやさしい読書環境を
 整えることの重要性を訴えた
 という意味でも、現代社会に
 一石を投じたものといえよう。

本を読む楽しみは、だれに
 でも等しくその機会は開かれ
 ているべきである。だれでも
 生きていければいいことばかり
 ではない。ままならない人生
 に、困難な状況に陥ったとき
 に、それを乗り越える力を与
 えてくれる存在に本はなり得
 るはずだ。

本を読むこと、とりわけ小
 説を読むことは、紙であれ、
 電子書籍であれ、単調な活字
 を追う作業から、経験したこ
 とのない立体世界を脳内に作
 りだし、そこで登場人物たち
 が動き出す。タイムパフォー
 マンス重視の今の風潮には逆
 行しているが、時間をかけて
 その世界を楽しむことこそが
 読書の醍醐味であり、明日へ
 の生きる活力を与えてくれる
 ものと思う。

私のペースで しおりは進む



2023・第77回 読書週間

10/27～11/9

自分ならではの読書の時間を
楽しもう！

「2023 第77回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送していきます。

標語・イラスト募集に応募いただいた方、選考委員、今回からデザインを担当するクウなど、すべての関係者に感謝いたします。

ポスターは6万2千枚を製作、全国の小・中・高校、公共図書館

書店などに配布、掲出をお願いします。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関にも、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封し送付する予定です。

今年の標語は、「私のペースでしおりは進む」です。入選者の藤村伸子さん（トーハン）は、「し

おりがなかなか進まない本もあれ



・イラストレーション／鈴木初奈
・標語／藤村伸子
・デザイン／間中幸子（クウ）

ば、一気に読んでしまう本もあり、読み終えればどちらも、充実感や感動を得ることが出来ます。これからも心に残る物語との出会いを求めて、私のペースで読書を楽しみたいと思います」と、作者のこ

とばを述べています。

ポスターイラストは、鈴木初奈さんの作品。「すいすいと読み進めるときも、じつくりと読み解いていくときも、ページを一枚一枚めくるたびに新しい世界が広がるのしおりとともに、よい読書体験がみなさまとともにありますように」とイラストに込めた思いをよせていただきました。しおりに乗って本を旅する女の子。飛んでいるスピードは速いのかゆっくりなのか、見る人見る人によって、感じ方が違ってくるのではないのでしょうか。

ゆつくり読んだ本や一気に読んだ本など、読んだペースをテーマにしたリ、『ソウの時間 ネズミの

時間』（中公新書）のようにそれぞれの生活や生きるペースを紹介したりと、「マイペース」をいろいろな方向から楽しく紹介する展示や実演を、期待します。

本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。また、電通の協力でも新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組でも取りあげてもらおうよう、努めています。

読書推進運動協議会ホームページ（<http://www.dokusyjo.or.jp>）では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータ（別デザインもあり）など画像データのほか、図書館、書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しています。昨年度より、画像データは印刷用・Web表示用の2種類のカラーモードを用意しております。広報紙やチラシなどは印刷用、ホームページやデジタルサイネージでの使用の場合はWeb用をそれぞれ選んでください。

■全国図書館大会 岩手大会 開催へ

久しぶりの対面開催！ イーハトーブで図書館を語りあう

公益社団法人 日本図書館協会 や岩手県ほかが主催する「第109回 全国図書館大会岩手大会」が、11月16日(木)・17日(金)に、岩手県盛岡市の盛岡地域交流センター(マリオス)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)で開催される。大会テーマは「理郷郷イーハトーブ」で本当の幸せを考える〜希望ある未来は図書館とともに〜。全国図書館大会が岩手県で開かれるのは、はじめて。また、4年ぶりの対面形式での開催となる。

全体会では、植松貞夫さん(日本図書館協会理事長)の基調報告が行われる。記念講演は本間喬樹さん(国立天文台水沢VLB観測所所長)の「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」。水沢の天文台の歴史や宮沢賢治とのつながり、ブラックホールの撮影など最先端の天文学研究について、また、研究者から見た図書館の重要性と今後への期待などを語る。

分科会は現在、「公共図書館」「児童サービス」「著作権」「障害者サービス」「出版流通」「多文化サービ

ス」「市民と図書館」など14分科会が予定されている。第10分科会「災害と図書館」では、あらためて東日本大震災における図書館の被災状況をふり返り、復旧までの歩みを検証。また、図書館資料の水害など災害からの予防対策と対処方法についても学ぶ。

参加には、事前の申し込みと参加費(7000円、岩手県民割引あり)が必要。申込期間は10月16日(月)まで、全国図書館大会岩手大会サイトより申し込みができる。宿泊プラン(先着順)も用意されている。各分科会は定員に達ししだい参加締め切りとなる。同サイトでは、分科会のテーマや内容など、詳細が決まりしだい、随時発表される。

●全国図書館大会岩手大会サイト
<https://lib-iwate.com>

(QRコード)



■日書連 秋の読者還元祭

当選者からの喜びの声が全国に！ 本屋さんで図書カードを当てよう

日本書店商業組合連合会(日書連)は、「読書週間」初日の10月27日(金)から11月23日(木)まで、「秋の読者還元祭 2023」を全国の書店で開催する。

この「還元祭」は、「読書週間」から始まる「BOOK MEETS NEXT」にあわせて実施されるもの。期間中、店頭に掲示される応募ポスター掲載のQRコードから読者キャンペーンサイトにアクセスし、必要事項を入力すること(応募できる。また、一部書店では書籍・雑誌を購入した読者にQRコードが入った「キャンペーンしおり」を配布する。抽選で、100名に図書カードネットギフト1万円分、200名に3000円分、1400名に1000円分が当たる。今回より、抽選結果がその場ですぐわかる「スピードくじ」方式が採用される。

■ブックスタート全国研修会

赤ちゃんの幸せを学び、 ブックスタートの実施につなげる

NPOブックスタートは、10月20日(金)、「ブックスタート全国研修会2023」を赤ちゃんとつとめるの最善のために私たちができること」をオンラインで開催する。対象は、ブックスタートを実施または実施検討中の自治体職員やボランティアなど。

プログラムは、①講演「子どもの声を聴く」講師 小澤いぶきさん(児童精神科医) 子どもの権



書店店頭の応募ポスター(見本)

「図書カードネットギフト」は、スマートフォンで使える図書カードで、すべての図書カード取扱店で使用できる。

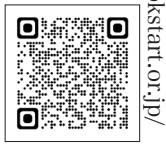
「秋の読者還元祭」しおり配布書店名など、詳細は日書連ホームページを参照のこと。

●日書連ホームページ
<https://www.n-shoten.jp/>

共に届けたい思いをコロナ禍を経て、尾張旭市健康課(愛知県) 研修会はZoomを使用。参加費は無料。10月13日(金)まで、NPOブックスタートサイトより申し込み。研修会終了後、11月1日(水)〜2024年1月31日(水)まで公式YouTubeチャンネルで見逃し配信を予定している。

●NPOブックスタートサイト
<https://www.bookstart.or.jp/>

(QRコード)



■日本子どもの本研究会 全国大会

子どもの本、子どもと本の結びつき
に未来を託して

7月29日(土)、30日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「第55回日本子どもの本研究会 全国大会『未来をひらく子どもと本』希望はめぐる 本から人へ 人から人へ」が開催された。

29日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェビング」「読書のアニメーション」知識読み物を手渡す」の5つ。「子どもの読書環境」では、NPO法人山梨子ども図書館 顧問の浅川玲子さんが、自身の70年におよぶ子どもとの関わり、県立図書館職



浅川玲子さん(右)の講座「子どもの読書環境」は、代田知子さんとの対談形式

員として、また子ども文庫や研究会の一員としての歩みを紹介。山梨県の子どもの読書推進を見渡せる話と浅川さんのやさしく力強い語り、会場中が聞き入った。基調報告は、同会会長の代田知子さんの「子どもは、人と関わりながら本を好きになつていく」。図書館員である代田さんは、コロナによる休館後の子どもたちから「子どもは本を見て、さわつて選ぶことに気づいた。この体験を、本をどう伝えるのか考える機会につなげたい」と述べた。また、学校や図書館での電子書籍サービスについて「導入初年度は補助金が出るが、次年度には予算がつかない自治体もある。また、図書館用の電子書籍はレンタルで、期間が切れると蔵書から消えてしまふ」と、現状の課題を紹介した。

記念講演「想像力の使い道〜むこう側にいる人たちへ」の講師は、翻訳家の原田勝さん。ウェストール『弟の戦争』(徳間書店)やネルソン『ハーレムの闘う本屋』(あすなろ書房)など、戦争や差別をテーマにした児童書の翻訳が多い原田さんは、国や民族・性別などが違って、相手の名前が浮かぶと、顔が少しも見えてくるとし、「海外の物語で、若い人たちにそんな体験をしてほしい」と述べた。この後、読書会、夜のついでで参加者は交流を深めた。30日の分科会は、「絵本」「小学生と読書」「中高生の読書」「特別支援と読書」「科学」「学校図書館・探究的な学び」「地域と読書」「図書館と出版と子どもの本」の8つ。閉会講演は翻訳家の百々佐利子さんの「『クシュラの奇跡』〜ドロシー・バトラーの本棚が語ること」。『クシュラの奇跡』から「バトラーさんの贈りもの」(ともにトララーさんとの交流を話した。



講演で取りあげた図書の本棚を紹介する原田勝さん

■国立国会図書館 国際子ども図書館 オンライン講座開催

幼年童話をテーマに
連続講座を開催

国立国会図書館 国際子ども図書館(東京都台東区)は、10月16日(月)、17日(火)に「令和5年度『国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座』を、Microsoft Teamsを使用してオンライン開催する。

今回の総合テーマは「幼年童話の可能性〜聞いて、読んで、物語の世界へ」。監修は、藤本恵さん(武蔵野大学文学部教授)。予定されている講座は

- 16日 ①「幼年童話概論」講師 佐々木由美子さん(東京未来大学教授) ②「幼年童話にみるジェンダー―育児の描かれ方を中心に」講師 宮下美砂子さん(小田原短期大学特任准教授) ③「グループディスカッション―幼年童話と子どもの読書」モデレーター 藤本恵さん
- 17日 ④「子どもの人間形成と幼年童話」講師 米川泉水さん(金沢学院大学准教授) ⑤「幼年童話人気シリーズに学ぶ、子どもの心のとらえ方、ひろげ方」講師 藤本恵さん ⑥「国際子ども図書館の小学生向けサービス」講師 国際子ども図書館職員

参加費は無料、申し込みは10月1日(日)まで、国際子ども図書館サイト内のフォームから申し込める(講座単位での受講も可能)。定員は40名程度(ディスカッションのみ150名程度)、定員に達しただけ締め切る。

また、国際子ども図書館では、10月1日(日)〜12月24日(日)の期間、展示会「おいしい児童書」が開催される。こちらは、「つくる」「たべる」「かながえる」の3つの切り口から、「食」を描く国内外の児童書を紹介、展示する。会期中には、ギャラリートークや講演会を予定している。

児童文学連続講座の講座内容や講師紹介、展示会の内容と会期中イベントスケジュールなど、詳細は同館サイトで確認できる。

●国立国会図書館

国際子ども図書館サイト

<https://www.kodomo.go.jp/>

■東京子ども図書館・児童図書館研究会 共催講演会

いまなお子どもたちに愛される作家が誕生するまでを紹介

公益財団法人 東京子ども図書館（東京都中野区）は11月30日（木）14時～16時に同館にて、渡辺鉄太氏講演会『しょうぼうじどうしゃじぶた』を書いた写真屋のガキ』を児童図書館研究会と共催で開催する。

この講演会は、東京子ども図書館50周年と児童図書館研究会70周年を記念して開催。児童図書館研究会設立メンバーで、児童文学作家・翻訳家の渡辺茂男さん（1928～2006年）が生い立ちからアメリカ留学までを綴った冊子『わが青春』をテーマにしている。

講師の渡辺鉄太さん（作家・翻訳家）は、茂男さんの息子で、オーストラリアでメルボルン子ども文庫を主宰。同文庫には、現地に駐留する日本人家族や日本にルーツを持つ子どもたちが集い、オーストラリア内の子ども文庫へのアドバイスなど支援も行っている。

参加には事前申し込みと会費（東京子ども図書館会員、児童図書館研究会会員は2000円。一般2500円）が必要。往復はがきに①氏名、②住所・郵便番号、③日中連絡のつく電話番号、④同館・同研究会の会員であるかと返信用宛名を記入して、東京子ども図書館へ申し込む。締め切りは10月2日（月）必着。定員は20名で、定員を超えた場合は抽選となる。

また、同講演会は12月15日（金）2024年1月9日（火）の期間、録画配信を行う。こちらも事前申し込みと会費が必要。配信申し込みは、東京子ども図書館ホームページでできる。

●公益財団法人

東京子ども図書館

165-0023

東京都中野区江原町1-19-10

<https://www.tcl.or.jp/>



【左】『わが青春』が青研（児童図書館研究会）【下】『しょうぼうじどうしゃじぶた』（福音書店）

優良読書グループの歩み (9)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。（順不同）

瓜連おはなしの会 ルピナス

代表者 加藤 智子

茨城県那珂市

〈推薦〉
茨城県読書推進運動協議会

2000年春。町に図書室が新設され、読み聞かせ講座が始まり、子育て中に絵本を満喫し、もつとたくさんの子に絵本の楽しみを届けたいと願っていたメンバーが集まりました。

1～2回のかぎられた機会なのか、年齢にあつたよいものを届けたいとの思いが強くなりました。まずは松岡享子さんの『えほんのせかい こどものせかい』を学習会で読み、掲載の絵本はすべて読みあいました。ただ定番絵本は新設の地元図書館にはないものも多く、県立や水戸の図書館の地下書庫も大いに利用。わらべうたや昔ばなしの大切さにも目覚め、各種研修会への参加。講座も開催しました。

会の名前はバーバラ・クーニーの絵本『ルピナスさん』にちなみしました。主人公がコッコツと種をまき、島中が色とりどりのルピナスの花で一杯になったように、子どもたちの心におはなしの種をまきたいとの願いからです。当初は「まいたら生えるわよ」とどろんと構えていましたが、小・中学校、幼稚園、学童、保育園と活動の輪を広げていくうちに、あらためて選書の大切さに気づきました。月

10周年には、「伊藤忠記念財団の100冊の絵本」に応募しピカピカのすばらしい絵本を手にするも、まだ文庫がなく活動の中心の小学校に寄贈。また、発表会も行い、『耳なし芳一』を地元出身の若手琵琶・尺八奏者と、『モチモチの木』をピアノとコラボで発表しました。それは大震災の年でもありました。

一山越えたその後、親の遠距離介護や孫育てに追われる方が増えました。そこでメンバーを増やそ

うと、市民活動支援事業に応募して採用され、2013年から2年間「読み聞かせ人養成講座」を開催。内容は講師を招いての研修会、絵本作家の講演会、定番絵本100冊の購入と読んで学ぶ講座。そして購入した絵本を基に文庫を開設。未就園児の親子の会を毎月2回継続開催中。現役親世代の仕事の壁は厚いものの、退職を迎えた方々が加わり、メンバーは15人ほどを維持しています。

絵本ひとつでこんなに盛りあがる会もないわねと、コロナの時期もなんとか乗り切り、今後の目標は選書の目を養う講座と読んで楽しい定番絵本の読みあひ会を広めていくこと。ほんとうに柳田邦男



茨城県立図書館での表彰式を記念して

さんが言うとおおり、「絵本は人生で三度」です。

ストーリーテリングの会 おはなしの泉

代表者 渡邊 純子

新潟県新潟市

新潟県読書推進運動協議会
(推薦)

おはなしの泉は、新潟市(旧豊栄市)立豊栄図書館主催の「おはなしを語る」講座(第一期)を受講したメンバーで、2000年に発足したストーリーテリングの会です。

現在、メンバー6名で活動しています。おもな活動拠点は、図書館、小中学校などですが、幼稚園・保育園などで活動する者もあり、読み聞かせ・ストーリーテリング、ブックトークと、幅広く読書活動を行っています。また、市民向けに大人のためのおはなし会を毎年開催し、ストーリーテリングの楽しさを伝える努力をしてきました。語りの講師をしてくださった若佐久美子さん(豊栄図書館初代館長)のアドバイスをときどき受けながら。

違いを説明するのたいへん苦労しました。それでも、語りを聞いてくれる子どもたちが、素直にんのことばかりで想像してくれたことに心が救われました。おはなしを覚えることも楽しくなり、ほかのグループのおはなしを聴きにいたり、メンバー同士で覚えた物語を聞きあい、プログラムを作る勉強会などをしました。

同時に、図書館の「おはなしのへや」の実践を20回以上続け、自分の子どもたちが通う小中学校でもストーリーテリングを広めていきました。そのかいあって、市内の小中学校から「語り」の依頼を受けるようになり、15年以上になります。

また、図書館の「おはなしのへや」では、「おはなしのろうそく」をつけて語ってきました。ろうそくに火が灯ると、子どもたちは絵のないことは世界にひきこまれ、自分だけの世界を創り出してゆくように見えるのです。あらためて、物語に真摯に向きあい、心を込めて語ろう!と身が引き締まります。

これまでチャリティーおはなし会、ゲストを招いた公開おはなし会などいろいろ行いましたが、私



ストーリーテリングの魅力と楽しさを追求

有田町こども司書

代表者 川村 竜央

和歌山県有田郡有田川町

和歌山県読書推進運動協議会
(推薦)

2020年、子どもから子どもへの読書推進を活性化させるため、有田川町こども司書の設立を企画し、どういった講座を行い、認定後はどういった取り組みを行ってもらうのか協議を重ねた。

その結果、本の修理や、ポップなどを用いた本の紹介の仕方などを盛りこんだ全6回の講座を受講した3名の小学生を、有田川町こども司書として認定することとなった。一期生認定後は、その活動が新聞社にも取りあげてもらったこともあり、二期生の募集の際には前年の3倍以上の人数が集まった。

二期生合流後、現在は8名の小学生たちが活動しており、月に1回全員が集まって、各分類の本を基にしたクイズの作成を行っている。それを小型の黒板にイラストと一緒に記入してもらい、各分類の本棚に設置することで、来館者にいろいろな分類の本に親しみを

持つてもらえるように取り組んでいる。また、その他にも月1〜2回程度、希望者のみの参加で図書カウンター業務も行っている。カウンター業務の合間には、本の修理や、おすすめ本を選書して図書館公式LINEへの配信も行っている。

こうして今でこそ順調に活動しているが、軌道に乗せるまでの組み立てには苦心した。養成講座自体は他県での取り組みなど模範となるものがあつたが、認定後の活動については取りあげられていないことが多いため、ゼロからの組み立てをしなければならなかったからだ。そのなかで毎月の活動前後にはかならず協議する時間を設



こども司書 読み聞かせに挑戦!

け、トライ&エラーを繰り返しながら、約1年がかりで現在の活動の形にいたった。

そんなトライ&エラーのなかでも子どもたちは非常にモチベーション高く取り組んでくれた。それは周りから徐々に認められてきたこと、成功体験が積みあがってきたことが大きな要因であったと考える。「学校の先生に褒められた」「勧めた本を読んでくれた」、そういったことばや実績をモチベーションに、現在も精力的に活動をしている。

今後は上記のとおり、こども司書の認定後の活動を取りあげているところが少ないため、有田川町こども司書は積極的に外部へ発信し、活動のモデルケースとなれるよう取り組んでいきたい。

波積 絵本の読み聞かせの会

代表者 井田 晴子
島根県江津市

〈推薦〉
島根県読書推進運動協議会

1996年、子どもたちに読

聞かせを始めた地区があることを知り、波積地区でも同年5月に6人で「波積絵本の読み聞かせの会」を立ちあげました。最初に発起人の瓜崎秀子さんから「細々とでもとにかく長く続けること」と言われ、このことばがその後の会員のがんばる力となってきました。地元のお寺の「子ども会」での読み聞かせが始まり、楽しみに月1回出かけました。しかし発足して3年後、瓜崎さんが無念の病死をされました。志を受け継いで坂本幸子さんが次の代表者になら

れ、会員力をあわせていろいろな活動をしてきました。

2002年度より学校が週5日制になったのを機に、公民館でも手作りした「読み聞かせのつどい」のチラシを配り、毎月土曜日に1回、読み聞かせや季節の遊び工作、おやつ作りなど、とても楽しい思い出となっています。

また、波積には「波積の郷(さと)ふれあい大会」という年1回の大きなイベントがあり、2000年第8回からペープサートで2年朗読劇で1年、大型紙芝居で11年参加してきました。ところが当地区も、過疎化による人口減少や子どもの部活・習いごとなどで、ずっと継続してきた「読み聞かせのつどい」への参加者が減少していき、2012年度には0人の月が4回もありました。「待つていてもダメ！こちらからでかけよう」と合併した隣地区の保育園に



子どもたちに人気の手作り大型紙芝居

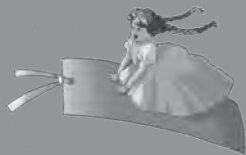
お願いし、そこでの読み聞かせが2013年度から今日まで続いています。

大型紙芝居は、出版社を通して作者に既製作品の二次使用の許諾をいただき、2003年より『おむすびころりん』をはじめ昔話の7作品を手作りしました。紙面は縦120cm×横185cm、舞台は地元の大

工さんに作っていただきました。これらは地元や江津市子どもまつり、保育園福祉サロンなどで披露しました。

運営は会員の年会費1000円ですが、紙芝居製作時は1500円にしたり、地区社協の援助を受けたい年もありました。会員は10人いましたが、現在は5人です。

会の発足から26年になります。1999年から会を引っぱってくださった坂本さんが2010年に病死され、瓜崎さんのときと同様、深い悲しみを味わいました。そんなとき、瓜崎さんの「細々とでも長く」と、坂本さんの「できる範囲で無理のないよう」のことがばを受け継いで、今は保育園から生まれ変わったこども園で月2回読み聞かせを続けています。



2023 第77回 読書週間 10月27日～11月9日

私のペースでしおりは進む



JBBY ブックガイド発行

日本の文化や、日本の子ども達の現状にふれる作品など88点を紹介

一般社団法人 日本国際児童図書協議会 (JBby) はブックガイド『おすすすめ! 日本の子ども本2023』を発行した。

このブックガイドは、2021年9月から2022年8月に日本で出版された日本人作家による児童書の中から、海外にもぜひ紹介したい作品、日本の子どもたち、保護者、図書館・出版関係者にも紹介したい作品などを選んだもの

IICLO オンライン講座

子どもの本の現在をさまざまなたまごのテーマ、ジャンルからうかがう

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 (IICLO) は、オンライン講座「2022年に出版された子どもの本から」を12月15日(金)まで配信している。

講師は、同財団 理事・総括専門員で児童文学研究者の土居安子さん。子どもの本を取りまく状況についての説明のあと、2022年に出版された子どもの本約30冊を「新型コロナウイルス感染症の

の。今号は、絵本23点、読みもの30点、ノンフィクション35点の合計88点を掲載している。

ブックガイドでは書影・書誌情報に加え、選書者が執筆した解説を紹介。表紙は、2021年ブラチスラバ世界絵本原画展で『たまごのはなし』が金牌受賞のしおたにまみさんの描きおろしとなっている。

ブックガイドの入手を希望する

中で生きる「戦争と平和」「難民と移民」「性とジェンダー」「障がい」「多文化共生社会で生きる」の6つのテーマと、ジャンル・年齢別に紹介する。

視聴には、申し込みと視聴費(1000円)が必要。配信期間中は、いつでも何度も視聴することができ。

また、現在、IICLOでは安定した財団運営を目的として、寄



表紙はしおたにまみさんのオリジナルイラストです

場合は、JBbyへ問いあわせること。また、JBbyホームページ内「JBbyがすすめる子ども本」のデータベースから、1冊ずつの解説を読むことができる。

JBbyホームページ

https://jby.org/ (e-mail info@jby.org)



年間1万円以上の寄付でクリアファイル、缶マグネットを進呈

付金を募集している。年間1万円以上の寄付者へは、佐々木マキさんデザインの「イイクロちゃん」グッズをプレゼントする。

講座申し込みと詳細、寄付の詳細はIICLOホームページまで

IICLOホームページ http://www.iiclo.or.jp/

事務局報告 (8月)

- 2日 文部科学省 図書館資料についてのサービスに関する調査研究 審査
- 3日 文部科学省と「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ
- 3日 子どもの読書推進会議2023 年度会費請求書送付
- 4日 「読書週間」ポスターを入稿
- 7日 機関紙「読書推進運動」669号 入稿
- 8日 機関紙「読書推進運動」669号 責了
- 8日 第53回 野間読書推進賞 推薦された候補について担当事業委員に資料送付
- 11日 16日 事務局夏期休業
- 17日 「読書週間」ポスター色校正 出来
- 28日 第53回 野間読書推進賞 第一次選考事業委員会 開催
- 29日 第53回 野間読書推進賞 選考会対象候補について選考委員に資料送付
- 31日 「読書週間」ポスター責了

編集部 & 事務局のひとこと

●ここ数年、近くが見えにくい状態(いわゆる老眼)が、どんどん加速していますが、少々困っていることがひとつ。マラソン大会の参加を検討するとき、コース図のPDFが画面で読みづらいのです。スマホの画面では文字がなにしろ小さい。拡大すると、文字は読めるようになって、それ以外の部分は画面の外に消えていき、全体像がつかみにくい。全体像がスッと頭に浮かびません。

●電子書籍サービスも少しは利用しているのですが、文字サイズをスマホ画面で読める大きさにすると一度に表示される量が少なく、ページ全体をうつすら見ながら読んでいく私には読みにくい。タブレットを使えば表示範囲も広がるので、それが、それなら紙の本を用意した方が楽だと、見送り続けています。

●今号の巻頭で中部嘉人さんが引用された、市川紗央さんの「ハンパック」(文藝春秋)の一節一節に込められた熱量に圧倒された方は多かったでしょう。私もそのひとり、あらためて電子書籍やデジタル化の必要性と可能性に向きあわねばと反省しました。一方で、紙の本を必要とする理由もやはりある。音訳点訳、拡大写本・大活字本など、読書バリアフリーを支える形もひとつはあります。本を読むという行為のあり方は、人それぞれその状況、好みによつて多種多様。すべての人が自由に「私のペース」で読書を楽しむために必要か、再認識するのも「読書週間」です。(伸)